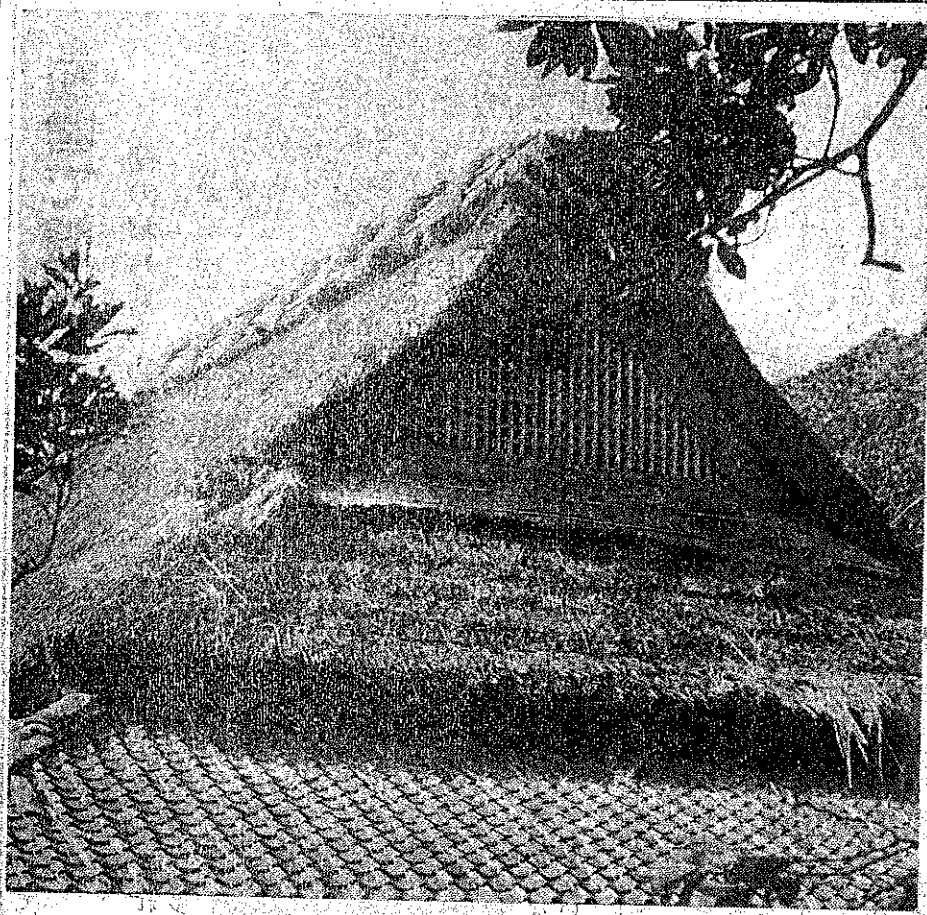


鶴

発行兼編集者
鶴 戸 神 官
社 務 所
印 刷 所
西 貝 本 印 刷 所



日本の歴史を顧よう

鶴戸神宮官司 長友 安美

三月十四日朝テレビで万国博民族には、いくら科学、文化の発展があつてもそれは本当の人間の発展、永遠の発展ではないと思ひます。たしかに表面では大変に科学、文化、生活水準は高くなつていますが、その内にある私たちの精神の問題を見れば

言

「少年法適用を十八才未満に」と云う新聞の記事があつた。十八才の成人に近い者の犯罪がふえていた

現在の少年法適用年令の二十才未満を引下げ十八才未満にしよう、検討されていると云うものであるが十八才と云えば高校を出て、大学へ、社会へ一人前の人間として、善悪を弁まゝ自分自身責任のある行動がとれる年令であり、肉体的にも既に大人であつて、今さら少年法でもあるまい。

三月十四日朝テレビで万国博民族には、いくら科学、文化の発展があつてもそれは本当の人間の発展、永遠の発展ではないと思ひます。たしかに表面では大変に科学、文化、生活水準は高くなつていますが、その内にある私たちの精神の問題を見れば

それは本当の発展ではありませぬ。私利私欲のみ追求している現在を見ます時、私たち日本人として私たちの祖先が築いてくれた歴史を正しく判断し本当の日本の在り方、人々の生き方を示してこれら益々発展する日本に日本独自の精神を立て直し、アジア諸国は勿論全世界の良き模範国として行きたいと、万国博をテレビで見ながら考える次第であります。

なわれていない。近世の武家社会では、男子十五才で元服し、一人前の大人として仲間入りをしている。それは幼少の頃からさびしく養われていた為であつて明始維新の原動力となり、若干二十六才で安政の大獄で死んでいった。越前の志士橋本左内が十五才の時「啓略録」を書いてゐる。その中に、少年が学に入る門戸として「稚心身去シ」「氣ヲ振ヘ」「志ヲ立テヨ」「勉學セヨ」「交友ヲ択ベ」と五ヶ条を説いているが、この十五才の少年の勧めと励ましを讀んで、考えれば現在の大人でさえ「啓略」されるものがある。また他にも数多く、我々祖先がのこしてくれた良き精神教育の教科書がある。刑法の適用年令の上下云々と云う前に、我々は是非しなくてはならないことがあるのではないだろうか。

初詣で賑う

初のおちちあめ湯接待

皇紀二六三〇年の戌年を迎えた正月三ヶ日の初詣は好天に恵まれ昨年にも増して、多くの参拝者でにぎわった。

元旦は近年にないあたたかさで大晦日の午後八時頃より、次第に団体や遠来の家族連れ、参拝者が多くなり今年始めて境内参道にある約三十基余りの石灯籠に明りが入り篝火がたかれ、荘厳神氣満ちる申を午前〇時斎服に威儀を正した宮司以下全職員によって、おごそかに年の始め

の歳旦祭が斎行され、皇室の御栄え国家安泰に五穀豊穡、よるの生業繁栄が祈念された。

このころにはすでに御社頭には黒山の人波で神符授与所前には神札やお守りを受ける参拝者で身動きも出来ないほどで、その上毎年のことながら厄夜等の御祈願の申込みも多く、昇殿の順番を待つ人達や夜明けと共に初日の出を拝もうとする人達で洞内は超満員の有様職員も整理に大わらわであった。かくして参

拝者の数は一層増し陸続として終日たえることがなかった。

二日は一時小雨があったが、早朝の初日供祭が執り行なわれる時刻には、すでに前日同様多数の参拝者があった。

今年の元旦から初めて接待を行った「おちちあめ湯」は当神宮のもっとも由緒のあるものではじめは参拝者も遠慮がちであったが、洞内のお乳岩から出るお乳水で作った給で御祭神がお育ちになったとの説明で各自の健康を祈りながら多くさんの人等がいたっていた。

しかし三ヶ日を通して多くの参拝者があったのであるが事故のなかつた事は有難い事であった。一つ残念なことは自動車での参拝者が年々増加しているのに十分な駐車場がない為国道太

多かつたといふ事は、今後一考を要する問題である。

八丁坂参道の土地 一部譲渡成る

鵜戸神宮の表玄関である八丁坂参道の土地一部の譲渡が問題になっていたが、この程無事に神宮へ譲渡された。

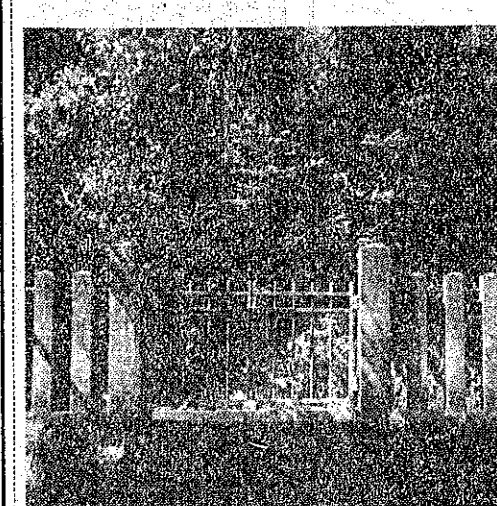
この土地は新参道の建設にともしない道路敷として、当時の協力会が買収していたもので、元の持主である当神宮へ譲渡される様に、陳情、請願していたもので、その間多くの困難な問題もあったが、各関係者の御理解御協力により、何の支障もなく円満に解決した。これによって本参道として八丁坂の摩訶維持が出来、参拝者に対し一層の神々しさを与えることである。

古神札収納殿出来る

この程、当神宮参道左風の宝物庫の傍に小さなお社がお目見えした。このお社は、参拝者が御神徳をいたとうと、身に着けたお守りや、神棚にお祭りしたお札などの古神符守札をお納めするところ、神社で授与したお札やお守りには、大神様の御分霊がお宿りになっておられます。各自の御守護いただきお除を被ったことを感謝し、古くなったお札やお守りをお粗末にせぬ様

境内あちこち (1)

山上陵 宮崎は、皇祖舜天孫降臨の遺蹟地であるから、到るところに聖蹟を仰ぐことが出来る。鵜戸の神域の最高地連日の際の頂に、御祭神「ウガヤフキアエズノ命」の御陵墓の参考地がある。末社稲荷社の横から、こけむした急な石段を約三町程登った海抜約七十米にあつて、三〇〇平方メートルの広さの小型円型墳で、年代的にも古く、古式墳で周囲には老樹が密生し、神気人に



追るものを感じる聖境である。日本書紀に「葬日向吾平山上陵」とあるだけで、確とした資料がないところから、明断することなく、これを尊崇した。

治二十八年十二月四日に陵墓参考地と指定されているが、古伝を尊重し軽々しく是非を断ずることなく、これを尊崇した。

いも あり 現在 宮内 省書 陵部 の管 轄に 属し 陵墓 守部 を置

あつた。今その址が壊れていく。戦後ほとんど参拝する人もなく、さみしい気がある。戦後後ほとんど参拝する人もなく、さみしい気がある。戦後後ほとんど参拝する人もなく、さみしい気がある。

この洞窟を近年調査した記録がないため、当神宮が特に調査の依頼をしたもので、時ならぬ洞窟内天井に長い梯子をかけてこの調査に参拝者も若がおちてくるのではないかと心配そうであったが、岩層調査ですこの職員の説明に安心していた。

例大祭執行される

厳寒の候とは云え、暖かい日差しをあびて去る二月一日神社本庁代理として甲斐県神社庁長官神宮官司の御使参向のもと当神宮例大祭が斎行された。

当日午前十一時大太鼓の轟く中を、宮司以下祭員が正装に威儀を正して参進、近藤知義氏による剣(居合)の清拔式に始まり警陣の声もおごそかに三つの御本殿の御前が開かれ、御食、御酒、海川山野の種々の神饌三十六台及び神社本庁幣が捧げられ、宮司御使の祝詞奏上に次

つぎ鵜戸中学校女生徒二人による浦安の舞奉奏、既旧藩主伊東家、宮崎鹿兒島、霧島神宮宮司、司当神宮責任役員、奉賛会長、氏

子総代、農協、漁協、一般参拝者代表等の玉串奉奠がありおごそかに祭儀が帯りなく終了した。

一方社務所前広場では、早朝より神賑行事の奉納剣道大会が催され、加えて日曜日とあつて一般参拝者も多く境内を埋め例

大祭にふさわしい賑ひであった。また毎年、御神饌米を奉納する風田(下中部)各各長をはじめ十数名づつが今年も例祭に参列し餅米を奉納後、社務所に参籠、恒例の農作占ひの歌合戦を行ひ両部落勝負つげがたく夜の更けるのも忘れていた。翌朝一同大前にぬかづき、今年の豊作を祈念した。

時間過ぎるのも忘れ神宮接待のおちちあめ湯を頂きながらの観戦(お面有り)「お手有り」「胴有り」の審判毎に味方の観衆より上る歓声拍手は夕刻まで続き、まことに盛大なる大会であつた。各部の成績は次の通り

- 〔男子〕
 - ①高千穂少年
 - ②延岡興武館
 - 〔中学の部〕①西米良中
 - ②高岡中
 - 〔高校の部〕①妻高
 - ②高鍋農高
 - 〔一般の部〕①県警機動隊A
 - ②同B
- 〔女子〕
 - 〔小学校の部〕①日高由紀子
 - ②村岡ひろみ
 - 〔中学校の部〕①那須みずほ
 - ②原久美子
 - 〔高校・一般の部〕
 - ①高地悦子
 - ②日高真智子

剣法発祥の聖地

恒例の奉納剣道大会

当神宮例大祭の神賑行事の一つである奉納剣道大会は、快晴にめぐまれた二月一日午前八時半から社務所前広場で「エイエイ」の掛け声も勇ましく神域にこたえ盛んに開かれた。

当神宮は古くから剣法発祥の聖地として由緒があるところから昭和二十八年に剣法発祥の鵜戸山顕彰剣道大会と名付け、第一回大会が開かれてより、今年第十八回を迎えた。

をあげて口頭の術を競い合った。当日は日曜日と重なり大勢の地元の人達や応援の人達で会場は埋まった。遠路からの参拝者も

が参加、開会挨拶に始まり中学の部で三年連続優勝した児湯郡の西米良中学校が表彰を受けたあと、広場を五会場に分け二月とは思えないあたたかな日差し

が参加、開会挨拶に始まり中学の部で三年連続優勝した児湯郡の西米良中学校が表彰を受けたあと、広場を五会場に分け二月とは思えないあたたかな日差し

責任役員会開かれる

当神宮責任役員会が去る三月二十日社務所に於て井戸川、中村、川上、松田、河野、江口實任役員に鬼束剛、泉、佐伯俊員委任状神宮側から宮司、佐藤祿宜出席のもと行なわれた。

会議は午前十時開会、宮司の挨拶、昨夕火災(全焼)のあった

一月十日 歳旦祭午前〇時斎行 約拾万の参拝者で賑う

一月三日 元始祭斎行

一月七日 自衛隊宮崎地方連絡部長一等空佐高杉文造氏参拝挨拶

三月九日 郡馬県神社総代会長吉田清作氏外二名参拝

三月九日 全日本剣道連盟理事中本軍治郎氏、県郷友会副会長岩切慶蔵氏参拝

三月二十一日 春分祭斎行

三月十五日 宮崎市古城老人クラブ四十名参拝

三月二十日 鵜戸神宮責任役員会開かれる

三月二十六日 新社務所建設地敷地工事始まる

三月二十九日 天皇陛下御参拝記念祭斎行これは今上陛下が大正九年三月二十九日に皇太子であらせられた時、当神宮へ御参拝いただいたことを記念して毎年斎行されているもの。

三月二十九日 天皇陛下御参拝記念祭斎行これは今上陛下が大正九年三月二十九日に皇太子であらせられた時、当神宮へ御参拝いただいたことを記念して毎年斎行されているもの。



をあげて口頭の術を競い合った。当日は日曜日と重なり大勢の地元の人達や応援の人達で会場は埋まった。遠路からの参拝者も



をあげて口頭の術を競い合った。当日は日曜日と重なり大勢の地元の人達や応援の人達で会場は埋まった。遠路からの参拝者も

をあげて口頭の術を競い合った。当日は日曜日と重なり大勢の地元の人達や応援の人達で会場は埋まった。遠路からの参拝者も

をあげて口頭の術を競い合った。当日は日曜日と重なり大勢の地元の人達や応援の人達で会場は埋まった。遠路からの参拝者も

「洞窟」と「死後感」

神社本庁教学部長 渋川謙一

私は昨年沖繩へ出張し、その地の神社に参拝し、神社の実態調査に従事しました。沖繩では神社を御岳(オタキ、拜所(オガンジヨ)などと称しており、勿論神社と云つても、本土の神社に較べて小さく、本殿、拜殿、社務所など一応神社の形骸を整へてゐる神社は、波上宮、普天満宮、沖繩県護国神社など極く限られた神社に過ぎません。他の神社は本殿のみのもので、拜殿のみのもので、或は神祠と云つた方が適切と思われるものが少くありませんでした。

沖繩には洞窟非常に多くあります。沖繩の神社、神祠、即ち御岳も、この洞窟の中に奉斎されてゐるものが殆んど云つてもよい。普天満宮は、宣野湾市の目抜き通りに在る氏神様と心で祭られてゐますが、その本殿の背後には鍾乳洞がありそこに御岳が祀られてゐます。金武御岳なども、山口県秋芳台の鍾乳洞を想はせる大洞窟の中に祀られてゐます。海岸の洞窟に祀られてゐる御岳は余り拜むことは出来ませんが、観光ルートを兼ねてゐる有名な斎場御岳一つの世界を死後に考へ、小説

や、神学においてこの二つの世界を刻明に描いて居ります。しかし、我が國では、外国の思想が入つて来るまでは、死後の世界をそのやうに刻明には考へてゐなかつたやうです。現世と、彼岸を分けず、たゞ現世より暗い、汚い世界があると考へその世界を根の國、底の國と稱へてゐたわけでありませう。そして、このやうな考へを現実に見るものが洞窟の中だったのでないでせうか。深い洞窟を進めば、どこまでも暗黒が続き、此の世の底に辿りつく、この世の根元に辿りつくそこに私どもの死んだ祖先が安住されてゐる未知、不可知の世界がある、私どもの祖先は考へてゐたのではないでせうか。従つて私どもの祖先は、亡き祖先の御魂が鎮ります霊地として洞窟を考へ、それ故に日本最古の神社と

も云ふべき鶴戸神宮が、洞窟の中に鎮座されてゐるのは、誠に意味が深いと云はねばなりません。それは、祖先ばかりのことでありませぬ。今私どもが鶴戸神宮や、沖繩の神祠を拜む時、外界の余りにも明るい、まばゆいばかりの動的な世界と対比して、暗く静かな洞窟の行先をみつめて、そこに死後の世界を感じる。祖先がこの先に居られるのだと云ふ実感が現に私どもの心に溢れて来るではありませんか。

沖繩の神社信仰は、本土の古い信仰を今に残してゐるとよく云はれてゐます。本土で最も古い神社の形として考へられる鶴戸神宮の御姿と、沖繩の多くの御岳の姿とが非常によく似てゐるのは、誠に興味深いことでありました。

土を掘りかきオブルト(ザ)の音、石を砕くハツパの響き、去る三月二十六日より、地元南建設合名会社の請負のもとに、

新社務所敷地の整地行なわれる

新社務所建設地の敷地工事が二日間に行なわれた。

約一六〇〇平方米の新社務所敷地は、昔、台所や客殿があつ

て、その頃「おみとう」(御折願)が多く「おみとう」を受けた参詣者がそこで食の接待を受けたもので当神宮が神仏習合時代の面影をしのぶものであつたが、火災に会い建物は焼失したが、こんどここに新しく社務所が建てられることは何か意義深いものがある。

職員ノ異動

- 十一月三十一日 出任 後藤策 社内権称宣発令
- 十二月三十一日 巫子 長友温子 斎女発令



編集後記

商業都市大阪で、人類の祭典万国博が開かれてゐる。真に「世界の国から今日」で、さぞ今年前半期は賑やかなことであらう。

開会式の開かれたお祭り会場は、今までの万国博ではなかつたやうで、各国の踊りやショーが見られ、人々が集まつて楽しく過すところである。

お祭は、昔から厳肅な中に賑やかで楽しいもので、日本ならではの特色である。開会式の陛下の畏きお言葉通りこの成功を祈つてやまない。

第四号発刊に際し玉稿を賜わつた。諸先生に厚くお礼申し上げます。(あずま)